

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月19日(第3日)

会場: プール

ゲーム

14

帽子の色	白	準々決勝 $\left. \begin{array}{l} 2 - 1 \\ 1 - 2 \\ 2 - 2 \\ 2 - 1 \\ EX. \\ - \\ - \\ P.T. \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
学名	津田学園高等学校		鹿児島県立鹿児島南高等学校	
得点	7		6	
天候	晴れ		審判1: 折笠 敬一	
			審判2: 榎本 隆	

戦評

準々決勝 白、津田学園は2回戦で明大中野を6 - 4で下し、平成14年茨城インターハイぶりのベスト4を目指す。対する青、鹿児島南は関西を5 - 2下し、4年連続となるベスト4入賞を目指す。

1P 始めに動いたのは津田学園、ターンオーバーからカウンターを出しコーナースローにすると5:4 7白 泉が5mシュートで先制する。すると津田学園に勢いがつき白 泉のフローティング、白 木村のミドルシュート、また、白 増田がカウンター中に退水を誘発しチャンスを作ったがいずれも得点に結びつかない。ここで2:5 5青 彌富が鋭いミドルシュートを決め1 - 1の同点になった。しかし、2:4 1白 泉がカットインから粘り強くシュートを放ち2 - 1とリードしこのピリオドは終了した。

2P 開始すると直ぐに6:3 3青 池水が不意を突いたロングシュートを放ちゴール右隅へ突き刺さし2 - 2の同点とした。今度は鹿児島南に勢いがつきカウンターを何度も出すが反則やパスミスを繰り返して得点を取ることができない。ここで何とか追加点が欲しいところで4:2 6青 松下が回し込みからGKをうまくかわし2 - 3と逆転ゴールを決めた。流れが大きく変わりそうになったが津田学園が意地をみせた。白 中川がカットインからシュートを放ち、そのリバウンドボールに白 泉が素早く反応しゴールへとねじ込み同点とする。前半が終了し3 - 3で折り返す。

3P 開始直後6:3 3、またも青 池水がロングシュートを放ちゴールを揺らし3 - 4とリードを奪う。一進一退の攻防が続くなか5:4 0白 増田がここで見事なフリースローシュートを放ち同点にすると、負けずと5:1 0青 瀨島がミドルシュートを決め4 - 5にした。さらにゲーム展開が激しくなり、両チームともカウンターからチャンスは作っているがシュートが入らない。この長いラリーを制したのが白 今井である。逆サイドのハーフラインから飛んできた見事なロングパスにキーパーも反応できず、鮮やかなワンタッチシュートを決め同点とした。ここでピリオドが終了し、5 - 5の同点で最終ピリオドを迎える。

4P 最終ピリオドが始まると6:3 8白 増田がカットインでドリブルし、ディフェンスと上からきたカバーをうまくかわしペナルティを奪った。しかし、ここで鹿児島南のGKが好セーブをみせ鹿児島ベンチを沸かせた。ゲームも終盤にかけ両者に疲れが見え始めたとき、5:2 6白 木村がバウンドシュートでゴールネットを揺らし1点リードとする。その後、鹿児島南の青 坂上と青 彌富が退水を誘発したが、2度のパワープレーチャンスをものにできず。逆に1:1 5白泉が2:1のカウンターを確実に決め7 - 5の2点差とリードを広げた。時間がない為鹿児島ベンチはプレスから得点を奪いにいく。残り19秒 青 彌富が5mシュートを決めると、津田学園の再開と同時に鹿児島南が3回目のタイムアウトを取った。狙いは明白だが津田学園がペナルティではなくオフェンス続行を選択し、ここでタイムアップ。

両者ともよく泳ぎレベルの高い試合をみせてくれた。津田学園の勝因は選手全員の一つになった気迫と勝利への執念、そして、応援席から飛んだ保護者の声援が合ったからではないかと思う。鹿児島南はこの悔しさを国体に向け挽回して欲しい。

記録者

坂本 博文